

## 杉田孝夫先生 略歴・著作目録

### 略 歴

- 1951年 7月12日 岩手県江刺郡梁川村にて出生
- 1958年 4月 岩手県東磐井郡東山町立長坂小学校入学
- 1964年 3月 岩手県北上市立黒沢尻西小学校卒業
- 1964年 4月 岩手県北上市立北上中学校入学
- 1967年 3月 岩手県北上市立北上中学校卒業
- 1967年 4月 岩手県立盛岡第一高等学校入学
- 1970年 3月 岩手県立盛岡第一高等学校卒業
- 1970年 4月 山形大学人文学部文学科入学
- 1974年 3月 山形大学人文学部文学科史学専攻卒業
- 1974年 4月 東京教育大学文学部研究生
- 1975年 4月 東京教育大学大学院文学研究科修士課程社会学（法律政治学）専攻入学
- 1978年 3月 東京教育大学大学院文学研究科修士課程社会学（法律政治学）専攻修了
- 1979年 4月 東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程政治学専攻入学
- 1985年 3月 東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程政治学専攻単位取得満期退学
- 1985年 4月 財団法人研数学館非常勤講師（-1987年 9月）
- 1986年 4月 放送大学教養学部非常勤講師（-1991年度）
- 1987年10月 お茶の水女子大学家政学部専任講師
- 1987年10月 お茶の水女子大学大学院家政学研究科担当
- 1992年10月 お茶の水女子大学生生活科学部専任講師（家政学部併任） 学部改組に伴う配置換
- 1994年10月 お茶の水女子大学生生活科学部助教授昇任（家政学部併任）
- 1997年 4月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程担当（家政学研究科併任）
- 2000年 9月 文部省長期在外研究員（LMU ミュンヘン大学客員研究員）（-2001年 6月30日）
- 2001年10月 お茶の水女子大学生生活科学部教授昇任
- 2005年 4月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程担当
- 2007年 4月 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授配置換
- 2010年 4月 お茶の水女子大学生生活科学部長（-2012年 3月）
- 2013年 4月 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科研究院基幹部門人間科学系長（-2015年 3月）
- 2015年 4月 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授配置換
- 2017年 3月 お茶の水女子大学定年退職
- 2017年 4月 お茶の水女子大学名誉教授

**学内委員等**

- 1988年4月 学生委員会委員（-1989年3月） 附属図書館運営委員会委員（-1994年3月）
- 1994年4月 附属学校教育研究委員会委員（-1996年3月）
- 1996年4月 カリキュラム委員会委員（-1998年3月）
- 1997年4月 施設計画委員会委員（-1999年3月）
- 1998年4月 生活科学部人間生活学科生活社会科学講座主任（-2000年3月）  
入試委員会委員（-2000年3月） 入学者選抜方法研究委員会委員（-2000年3月）
- 1998年10月 スペース・コラボレーション・システム事業運営委員会委員（-2000年3月）  
情報処理センター員（-2002年10月）
- 2002年4月 大学院人間文化研究科代議員（-2003年3月）
- 2002年9月 大学本館改修・移動生活科学部ワーキンググループ委員
- 2003年4月 大学本館改修・移動生活科学部ワーキンググループ委員長（-2006年3月）  
大学院人間文化研究科前期課程発達社会科学専攻生活・開発科学系長（-2006年3月）
- 2004年4月 大学院人間文化研究科前期課程発達社会科学専攻長（-2005年3月） 大学院人間文化研究科前期課程入試実施部会副会長（-2006年3月） ジェンダー研究センター運営委員会委員（-2010年3月）
- 2005年10月 生物医学的研究の倫理委員会委員（-2010年3月）
- 2006年1月 2006年度代表者選出管理委員会委員
- 2006年4月 入試推進室員（-2008年3月） 学部入試実施部会委員（-2008年3月）  
生活科学部自己評価委員会副委員長（-2007年3月）
- 2007年1月 2007年度代表者選出管理委員会委員
- 7月 AO入試実施委員（-2008年3月）
- 2008年7月 学長候補適任者選挙管理委員会副委員長
- 2009年4月 お茶の水女子大学生活社会科学研究会会長（-2013年3月）
- 2010年4月 生活科学部長，教育研究評議会評議員（-2012年3月）
- 2013年4月 大学院基幹部門人間科学系長，教育研究評議会評議員（-2015年3月）  
セクシュアル・ハラスメント等人権委員会委員長（-2015年3月）  
総務機構総務室長（-2014年7月） 学長戦略機構総務室長（2014年8月-2015年3月）
- 2015年4月 セクシュアル・ハラスメント等人権侵害相談員（-2017年3月）  
基幹研究院人間科学系自己評価委員会委員（-2017年3月）  
大学院F・D委員（-2017年3月） 学術リポジトリ推進委員会委員（-2017年3月）  
毒物及び劇物管理委員会委員（-2017年3月）
- 2016年4月 大学院博士後期課程ジェンダー学際研究専攻長（-2017年3月）  
『人間文化創成科学論叢』編集委員会委員長（-2017年3月）

**学外出講**

- 放送大学教養学部非常勤講師 「政治学入門」面接授業（1986-91年度）
- 日本大学経済学部非常勤講師 「卒論演習」（1990年度）
- 成蹊大学法学部政治学科非常勤講師

「社会科学方法論」「外国書講読」(1991-99年度)「政治とジェンダー」(2001-07年度)  
「西洋政治思想史Ⅰ・Ⅱ」(2003-04年度)「政治学」(2005-06年年度)  
筑波大学国際関係学類非常勤講師 「政治分析Ⅰ」(1992-93年度, 1995年度)  
獨協大学法学部非常勤講師  
「政治思想史」(1997, 2007-08年度)「演習Ⅱ」(1997年度)「政治学特講B」(1998-99年度)  
「政治学総論」(1998-99, 2002-05, 2009-11年度), 「政治学概説」(2012年度 - 現在)  
「社会科学方法論」(2005年度)「政治学原論」(2008, 1010-11年度)「現代社会」(2009年度),  
「国際政治特講」(2006-08年度, 2012年度 - 現在)  
和洋女子大学人文学部国際社会学科非常勤講師 「ヨーロッパの文化と社会」(2000-03年度)  
慶應義塾大学法学部政治学科非常勤講師 「政治理論史Ⅰ・Ⅱ」(2015年度)  
かわさき市民アカデミー政治・社会コース2015年度講師  
「ナショナリズムとは何か：ヨーロッパと日本の過去・現在・未来」  
第4回「フィヒテとヘーゲルにとってのフランス革命」(5月20日→5月27日に変更実施)  
第5回「19世紀ドイツ・ナショナリズムの理論と実践」(5月27日→6月17日に変更実施)  
第8回「ナチズムと戦後ドイツ」(6月17日)

## 所属学会

社会思想史学会 (1976年 - 現在)  
日本政治学会 (1979年 - 現在)  
日本フィヒテ協会 (1986年 - 現在)  
政治思想研究会 (1989-1993年) 政治思想学会 (1994年 - 現在)  
日本シェリング協会 (1992年 - 現在)  
ヘーゲル研究会 (1995年 - 2005年) 日本ヘーゲル学会 (2005年 - 現在)  
日本カント協会 (2004年 - 現在)  
日本哲学会 (2010年 - 現在)

## 学外委員等

### (学会)

1997年 日本フィヒテ協会会計監査 (-2003年度)  
2003年 ヘーゲル研究会運営委員・事務局長 (-2004年)  
2004年 フンボルト財団後援・日本ヘーゲル学会主催「日本におけるドイツ年2005年 - 2006年  
日独哲学シンポジウム東京プログラム<精神現象学200年>」事務局 (-2006年3月)  
日本フィヒテ協会委員 (- 現在)  
日本フィヒテ協会フィヒテ賞選考委員会委員 (-2009年度)  
2005年 日本ヘーゲル学会理事 (-2006年度, 2013年度 - 現在)  
日本フィヒテ協会事務局長 (-2007年度)  
2006年 日本ヘーゲル学会選挙管理委員長 (2006年度, 2012年度)  
2007年 日本ヘーゲル学会監事 (-2008年度)

- 2010年 日本フィヒテ協会編集委員長（-2012年度）  
2011年 日本哲学会事務局幹事・国際交流 WG 委員  
2012年 日本哲学会国際交流委員（-2014年度）  
2013年 日本フィヒテ協会編集委員（-2015年度）  
日本ヘーゲル学会企画委員・編集委員（-2014年度）  
日本カント協会編集委員（-2015年）  
日本哲学会評議員（-現在）  
2015年 日本ヘーゲル学会編集主幹（-2016年度）  
日本哲学会理事（-現在）  
日本哲学会 HP・事務局改革 WG 座長（-2016年度）  
2016年 日本フィヒテ協会フィヒテ賞選考委員長（-現在）  
選挙管理委員会委員長（-2017年）  
日本カント協会事務局幹事（-2017年度）  
2017年 日本ヘーゲル学会企画委員長（-現在）

#### （その他）

- 獨協大学地域総合研究所客員研究員（2011年10月 - 現在）  
政治哲学研究会『政治哲学』編集委員（2012年度 - 現在）

#### （審議会等）

- 文部省教科用図書検定調査審議会調査員（1999年12月 - 2000年10月）  
東京都葛飾区男女平等推進審議会委員（2005年5月 - 2010年3月）  
大学評価・学位授与機構大学教育研究評価委員会専門委員（2016年1月 - 2017年3月）

#### 受賞

- 第5回日本フィヒテ協会賞（研究奨励賞）（日本フィヒテ協会，1999年11月20日）

## 著作目録

## I 論文

1. 「政治思想としてのドイツ観念論—フィヒテにおける自由と強制—」『東京都立大学法学会雑誌』第25巻第2号, 1984年12月, 97-138頁所収.
2. 「フィヒテにおけるフランス革命—一七八九年の理念に基づく『社会』と『国家』—」『東京都立大学法学会雑誌』第29巻第1号, 1988年7月, 187-222頁所収.
3. 「フィヒテにおける『国民』」田中浩編著『現代世界と国民国家の将来』(御茶の水書房, 1990年2月) 264-277頁所収.
4. 「フィヒテの家族観」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第44巻, 1991年3月, 83-106頁所収.
5. 「ドイツ観念論における家族観—Haus から Familie へ」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第46巻, 1993年3月, 115-128頁所収.
6. 「南原繁とフィヒテ」『フィヒテ研究』第2号, 日本フィヒテ協会編, 晃洋書房刊, 1994年11月, 154-163頁所収.
7. 「共同体論の可能性に寄せて—個人・家族・共同社会—」『哲学論集』第25巻, 上智大学哲学会編, 1996年7月, 55-63頁所収.
8. 「日本社会と女子学生」利谷信義・湯沢雍彦・袖井孝子・篠塚英子編『高学歴時代の女性—大学からのメッセージ』(有斐閣, 1996年11月) 21-39頁所収.
9. 「ドイツ啓蒙と Patriotismus」『東京都立大学法学会雑誌』第38巻第1号, 1997年7月, 345-371頁所収.
10. 「カントの家族観」(上)(下)『お茶の水女子大学人文科学紀要』第52巻(1999年3月, 49-60頁), 第53巻(2000年3月, 27-38頁) 所収.
11. 「フィヒテの Patriotismus 論」『フィヒテ研究』第8号, 日本フィヒテ協会編, 晃洋書房刊, 2000年12月, 116-131頁所収.
12. 「カントとフィヒテの歴史認識における政治的なもの」『フィヒテ研究』第13号, 日本フィヒテ協会編, 晃洋書房刊, 2005年12月, 25-39頁所収.
13. 「ヘーゲル家族論の現代的意義」『ヘーゲル哲学研究』第11号, 日本ヘーゲル学会編, 2005年12月, 97-106頁所収.
14. 'Das Nationale in Fichtes Spätwerk' in: *Fichte Studien*, Bd.29, rodopi, Amsterdam, 2006, S.121-127.
15. 「政治思想としての精神現象学」『理想』第679号 特集 ヘーゲル『精神現象学』, 理想社, 2007年8月, 62-72頁所収.
16. 「『ドイツ国民に告ぐ』はどのように読まれ, どのように読まれなかったのか」『フィヒテ研究』第17号, 日本フィヒテ協会編, 晃洋書房, 2009年12月, 60-74頁所収.
17. 「ドイツ観念論における「家族」観と自由」『哲学』第62号, 日本哲学会編, 知泉書館, 2011年4月, 57-71頁所収.
18. 「啓蒙思潮とドイツ観念論の政治思想—共和制をめぐる言説に着目して—」『ヘーゲル哲学研究』第17号, 日本ヘーゲル学会編, こぶし書房, 2011年12月, 66-80頁所収.
19. 「1812年法論と1813年国家論のテキスト問題—フィヒテ法政治論のテキストとコンテクスト—」『フィヒテ研究』第20号, 日本フィヒテ協会編, 晃洋書房, 2012年11月, 74-85頁所収.
20. 'Die Fichte-Interpretation von Shigeru Nanbara' in: *Fichte-Studien*, Bd.38, rodopi, Amsterdam,

2013, S.277-284.

21. 「ポスト・ベッドタウンシステムの条件—埼玉県三郷市を事例に一」福永文夫・雨宮昭一・獨協大学地域総合研究所編『ポスト・ベッドタウンシステムの研究』（丸善プラネット発行，丸善出版発売，2013年3月）19-52頁所収.
22. 「ナショナリズム—国民国家とは何であったのか—」宇野重規編『岩波講座 政治哲学3 近代の変容』（岩波書店，2014年5月）125-150頁所収.
23. 「カントと日本国憲法をつなぐ」『日本カント研究』第15号，日本カント協会編，知泉書館，2014年7月，22-38頁所収.
24. 「後期社会哲学 1800-1814 年」長澤邦彦・入江幸男編『フィヒテ知識学の全容』（晃洋書房，2014年12月）207-218頁所収.
25. 「家族・市民社会・ジェンダー」杉田孝夫・中村孝文編『市民社会論』（おうふう，2016年3月）391-415頁所収.
26. 「平和の政治学としての『閉鎖商業国家論』」『獨協法学』第102号，獨協大学法学会編，2017年4月，75-97頁所収.

## II 翻訳

1. C.A. リーズ著（田中浩・安世舟編訳）『政治の世界—理論・思想・制度・国際—』御茶の水書房，1987年2月（共訳）[第13章「決定作成とコミュニケーション」325-359頁担当]
2. クインティン・スキナー著（半澤孝磨・加藤節編訳）『思想史とはなにか—意味とコンテクスト—』（叢書 [ SELECTION 21 ] 所収）岩波書店，1990年6月，新装版：叢書 [ 岩波モダンクラシックス ] 岩波書店，1999年11月（共訳）[第II章「動機，意図およびテキストの解釈」141-168頁担当]
3. 『フィヒテ全集 第6巻 自然法論』（藤澤賢一郎・杉田孝夫・渡部壮一訳）哲書房発行，理想社発売，1995年1月（共訳）[「カント『永遠平和のために』論評」（459-469頁）「訳注」（551-554頁），「解説」（601-603頁）担当]
4. ラインハルト・コゼレック著「身分制的支配構成単位としての家の崩壊—フランス革命と一八四八年との間のプロイセンにおける国家・家族・奉公人の法転換によせて—」『制度知の可能性』（Historia Juris 比較法史研究 —思想・制度・社会—）第4号，比較法史学会編，未来社，1995年3月，343-360頁所収.
5. デイター・シュヴァープ著（田崎聖子と共訳）「家族の概念史」（I）（II）（III完）『生活社会科学研究所』お茶の水女子大学生活社会科学研究会編，第15号（2008年10月，33-49頁），第16号（2009年10月，81-96頁），第17号（2010年10月，101-117頁）所収.
6. 『フィヒテ全集 第21巻 社会哲学講義』（岡田勝明・座小田豊・菅野健・杉田孝夫訳）哲書房，2009年3月 [「法論の体系」（335-566頁）「政治的著作の構想からの抜粋」（575-588頁）「解説」（602-617頁）担当・菅野健と共訳]
7. フレデリック・C・バイザー著（杉田孝夫訳）『啓蒙・革命・ロマン主義—近代ドイツ政治思想の起源 1790-1800—』法政大学出版局，2010年3月，全756頁.
8. モハメド・ラッセム著（田崎聖子と共訳）「福祉の概念史」（I）（II）（III完）『生活社会科学研究所』お茶の水女子大学生活社会科学研究会編，第19号（2012年10月，59-73頁），第20号（2013年10月，55-69頁），第21号（2014年11月，63-80頁）所収.
9. ヴィルヘルム・フォン・フンボルト著（菅野健と共訳）「性差およびその有機的自然に及ぼす

- 影響について」『ジェンダー研究』第16号, お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編, 2013年3月, 75-93頁所収.
10. 『フィヒテ全集 第16巻 閉鎖商業国家論・国家論講義』(神山伸弘・柴田隆行・菅野健・杉田孝夫訳) 哲書房, 2013年5月 [「国家論への付録」(431-485頁)「書簡」(486-490頁)「解説」(535-539頁)担当・菅野健と共訳]
11. ヴィルヘルム・フォン・フンボルト著(菅野健と共訳)「男性の形式と女性の形式について」『ジェンダー研究』第17号, お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編, 2014年3月, 129-154頁所収.
12. 『フィヒテ全集 第17巻 ドイツ国民に告ぐ・政治論集』(早瀬明・菅野健・杉田孝夫訳) 哲書房, 2014年11月 [「ドイツ国民に告ぐ 付録」「ドイツ人の共和国 政治論断片」「祖国愛とその反対」「マキャヴェッリ論」「聴講者に向けての演説」「書簡」「解説」327-590頁担当, 菅野健と共訳]

### Ⅲ 書評

1. 「加藤節著『ジョン・ロックの思想世界—神と人間との間』(東京大学出版会, 1987年)』『成蹊大学法学政治学研究』第7号, 成蹊大学大学院法学政治学研究科編, 1988年3月, 51-64頁所収.
2. 「三成美保『近世チューリヒ市の夫婦財産制』(前川和也編著『家族・世帯・家門—工業化以前の世界から—)』『法制史研究』第44号, 法制史学会編, 創文社刊, 1995年3月, 336-338頁所収.
3. 「中谷猛著『近代フランスの自由とナショナリズム』(法律文化社, 1996年)を読む』『政治思想学会会報』第8号, 政治思想学会編, 1999年4月, 1-6頁所収.
4. Hans-Joachim Becker, *Fichtes Idee der Nation und das Jugentum —Den vergessenen Generation der jüdischen Fichte-Rezeption—* (Fichte-Studien Supplementa Band14, rodopi, Amsterdam, 2000) 『フィヒテ研究』第9号, 日本フィヒテ協会編, 晃洋書房刊, 2001年11月, 105-111頁所収.
5. 「[海外研究紹介] Ingrid Görland, *Die Entwicklung der Frühphilosophie Schellings in der Auseinandersetzung mit Fichte*, Vittorio Klostermann, Frankfurt am Main, 1973.」『シェリング年報』第10号, 日本シェリング協会編, 晃洋書房刊, 2002年7月, 176-178頁所収.
6. 福吉勝男著『自由と権利の哲学: ヘーゲル「法・権利の哲学講義」の展開』(世界思想社, 2002年) 『図書新聞』第2610号, 2002年12月14日, 第5面所収.
7. 「瀬戸一夫著『無根拠の挑戦』(勁草書房, 2001年4月)』『フィヒテ研究』第11号, 日本フィヒテ協会編, 晃洋書房刊, 2003年11月, 96-101頁所収.
8. 「市民社会論の新地平—篠原一著『市民の政治』(岩波新書, 2004), 宮島喬著『ヨーロッパ市民の誕生』(岩波新書, 2004)に寄せて—」『生活社会科学研究』第12号, お茶の水女子大学生活社会科学研究会編, 2005年10月, 61-65頁所収.
9. Frederic C. Beiser, *Hegel*, Routledge, 2005. 『ヘーゲル哲学研究』第13号, 日本ヘーゲル学会編, こぶし書房刊, 2007年12月, 204-209頁所収.
10. 福吉勝男著『現代の公共哲学とヘーゲル』(未来社, 2010年) 『図書新聞』第2985号, 2010年10月9日, 第5面所収.
11. ミヒャエル・クヴァンテ著, 高田純・後藤弘志・渋谷繁明・竹島尚仁訳 『ヘーゲルの行為概念—現代行為論との対話—』リベルタス出版, 2011年) 『図書新聞』第3046号, 2012年1月21日, 第3面所収.
12. 「合評会I 榎左武志著, 岩波書店, 2010年『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』評論1』『ヘー

- ゲル哲学研究』第18号，日本ヘーゲル学会編，こぶし書房刊，2012年12月，153-156頁所収。
13. ロバート・B・ピピン著，星野勉監訳，大橋基・大藪敏宏・小井沼弘嗣訳『ヘーゲルの実践哲学—一人倫としての理性的行為性』法政大学出版局，2013年4月）『図書新聞』第3121号，2013年8月3日，第3面所収。
  14. 福吉勝男著『福沢諭吉と多元的「市民社会」論』世界思想社，2013年9月）『週刊読書人』第3019号，2013年12月13日，第4面所収。
  15. 「三浦まり・衛藤幹子編著『ジェンダー・クオータ 世界の女性議員はなぜ増えたのか』（明石書店，2014年3月）『生活社会科学研究』（お茶の水女子大学生活社会科学研究会編）第21号，2014年11月，59-61頁所収。
  16. 「清水満著『フィヒテの社会哲学』（九州大学出版会，2013年9月）』『フィヒテ研究』第22号，日本フィヒテ協会編，晃洋書房，2014年11月，127-133頁所収。
  17. 「合評会 石崎嘉彦著『政治哲学と対話の弁証法—ヘーゲルとレオ・シュトラウス』評論I『ヘーゲル哲学研究』第21号，日本ヘーゲル学会編，こぶし書房，2015年12月，172-175頁所収。
  18. 加藤節著『南原繁の思想世界 原理・時代・遺産』（岩波書店，2016年2月）『週刊読書人』第3143号，2016年6月10日，第4面所収。
  19. 高田純著『現代に生きるフィヒテ フィヒテ実践哲学研究』（行路社，2017年3月）『週刊読書人』第3194号，2017年6月16日，第4面所収。

#### IV 事典・資料集等項目執筆

1. 「アイヒホルン」『日本大百科全書』第1巻，小学館，1984年，67頁所収。
2. 「フィヒテ」『岩波 哲学・思想事典』岩波書店，1998年，1355-1356頁所収。
3. 「無神論論争」『岩波 哲学・思想事典』岩波書店，1998年，1569-1570頁所収。
4. 「プライヴァシー」『政治学事典』弘文堂，2000年，947頁所収。
5. 「南原繁」『新カトリック大事典』第3巻，研究社，2002年，1423頁所収。
6. 「ヤコービの経済学」『哲学の歴史 第7巻 理性の劇場』中央公論新社，2007年7月，258-259頁所収。
7. 「ヨハン・ゴットリープ・フィヒテ」『西洋政治思想史資料集』（杉田敦・川崎修編著）法政大学出版局，2014年9月，186-189頁所収。

#### V 調査研究報告書・研究ノート

1. 「戦後日本における高等教育と女性—その理念と実際—」1993年度東京女性財団助成研究『男女共同参画型社会の形成と女性の高等教育』男女共同参画型社会研究編，1994年3月，141-146頁所収。
2. 「政治学分野の教員数・学生数の男女比」平成9年度時限研究促進経費報告書『大学教育とジェンダー II』お茶の水女子大学ジェンダー研究センター，1998年3月，63-102頁所収。
3. 「和解は可能か：政治哲学的問い」『ぶらくしす』2011年度，第13号。広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター編，2012年3月，79-84頁所収。
4. 「ヴァイツェッカーと戦後ドイツにおける「和解」の政治哲学」(1)(2)(3)『ぶらくしす』（広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター編），第14号（2013年3月，11-21頁），第16号（2015

- 年3月, 61-71頁), 第17号(2016年3月, 67-78頁)所収.
5. 「南三陸ノート」(1)(2)(3)(4)(5)『地域総合研究』(獨協大学地域総合研究所編)第6号(2013年3月, 119-131頁), 第7号(2014年3月, 79-88頁), 第8号(2015年3月, 61-72頁), 第9号(2016年3月, 115-126頁), 第10号(2017年3月, 93-114頁)所収.

## VI その他

1. 「児童の権利条約—その思想的背景—」『子どもと家庭』第28巻第2号, 日本児童問題調査会, 1991年5月, 16-20頁所収.
2. 「女性が変われば政治が変わる」『生活社会科学研究』第4号, お茶の水女子大学生活社会科学研究会編, 1997年10月, 101-103頁所収.
3. 「自由やデモクラシーを生活のなかでどう鍛えるか」『AERA Mook 生活科学がわかる』朝日新聞社, 1998年12月, 36頁所収.
4. 「外国語と私 英語とドイツ語」『生活工学研究』第6巻第2号, お茶の水女子大学生活科学部生活環境科学科生活工学講座編, 2004年7月, 164-165頁所収.
5. (座談会)「座談会 ヘーゲル研究会の20年」『ヘーゲル哲学研究』第11号, 日本ヘーゲル学会編, 2005年12月, 158-173頁所収.
6. 「カント作品を読む際のよき導き」『哲学の歴史 別巻 哲学と哲学史』中央公論新社, 2008年8月, 406頁所収.
7. 「シンポジウム司会総括」(「シンポジウム I 現代の危機に応えるヘーゲル—その『法哲学』的処方箋」『ヘーゲル哲学研究』第20号, 日本ヘーゲル学会編, こぶし書房, 2014年12月, 55-58頁所収)
8. <海外学会報告>「第9回国際フィヒテ協会大会」『日本カント研究』(日本カント協会編)第17号, 知泉館, 2016年7月, 183-184頁所収.
9. 「葛藤を思想史の中で考える」『幼児の教育』第115巻第3号, 日本幼稚園協会編, フレーベル館, 2016年7月, 17-20頁所収.
10. 「二つのフィヒテ全集の完結に寄せて」『理想』第697号「特集 フィヒテ」, 理想社, 2016年9月, 2-13頁所収.
11. 「シンポジウム司会総括」(「シンポジウム II ヘーゲルにおける戦争と平和」)『ヘーゲル哲学研究』第22号, 日本ヘーゲル学会編, こぶし書房, 2016年12月, 142-145頁所収.

(2017年7月1日現在)